１．製品及び会社情報

製品名　：ネオマフォームF
SDS整理番号　：D009-01-02
供給者の会社名称　：旭化成建材株式会社
住所　：〒101-8101 東京都千代田区神田神保町１丁目105番地
担当部門　：断熱事業部　断熱技術開発部
電話番号　：03-3296-3898
FAX番号　：03-3296-3529
緊急連絡先　：断熱事業部　断熱技術開発部
緊急連絡電話番号　：03-3296-3898
推奨用途及び使用上の制限　：
（推奨用途）　JISA9521建築用断熱材、JISA9511発泡プラスチック保温材
（使用上の制限）　推奨用途以外の用途へ使用する場合は供給者の判断を仰ぐこと。

２．危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素
GHS分類
健康に対する有害性
呼吸器感作性　：区分 1
皮膚感作性　：区分 1
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 1
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分 1

３．組成及び成分情報

成分	含有率[%]	化学名または一般名
ネオマフォーム	76.4～86.6%	イソブタン：0.1～5.2% シクロペンタン：0.1～5.2% 酸化チタン：0～0.2%
表面材	9.8～17.3%	アルミニウム箔：9.7～17.1%
接着剤	3.6～6.3%	エチレン-酢酸ビニルコポリマー等 ：3.6～6.3%

４．応急措置

吸入した場合　：空気の新鮮な場所に移し、休息させる。 異常がある場合は医師の診察・手当を受ける。なお、アルミ粉じんを多量に吸引した場合は直ちに医師

の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合　：水と石鹸を用いて洗い落とす。皮膚に発疹、炎症等が発生した場合は医師の診断・手当てを受ける。なお、接着剤が加熱溶融状態で付着した場合は、直ちに水で冷却後、火傷対する医療処置を行う。

眼に入った場合　：手でこすらずに直ちに大量の清浄な流水で数分洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後、医師の診断・手当てを受ける。なお、接着剤が加熱溶融状態で目に入った場合は、直ちに水で冷却し、眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合　：水で口の中をよく洗浄する。出来るだけ吐き出し、異常を感じるようであれば医者の診察を受けること

５．火災時の措置

消火剤　：泡消火剤。ただし表面材が燃焼した場合は乾燥砂、ガラス繊維布で消化する。

使ってはならない消火剤　：水の使用は厳禁である。粉末消火器、炭酸ｶﾞｽ消火器、塩化物の消火剤は使用しないこと。

火災時の特有の危険有害性：条件によってはアンモニア臭や（人体に有害なレベルの量ではない）、刺激性・毒性のガス（一酸化炭素、二酸化炭素、アンモニア、微量のアセトアルデヒド等）が発生することがある。 樹脂発泡体部分は難燃性だが、粉じんでは火が移り易くなるので、火気の取扱いには注意すること。表面材においてはﾁｯﾌﾟの状態で燃焼した場合は高温燃焼となる。微粉が飛散している環境の場合は粉じん爆発の可能性がある。また、溶解したｱﾙﾐﾆｳﾑの場合は、水蒸気爆発の危険性がある。粉末の集合体が燃焼している場合は、消火後再び発火する恐れがある。

特有の消火方法　：周辺が火災の場合、速やかに安全な場所に移動させる。なお表面材においてはｶﾞﾗｽ繊維布等の不燃性のものでｶﾊﾞｰし酸素を遮断し、粉じんをたてないようにして乾燥砂か消火剤を用いて窒息消化する。

消火を行う者の保護　：消火作業の際は、適切な空気呼吸機を含め完全な防護服（耐熱性）を着用する。消火作業は離れた風上から行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

：必要に応じて、呼吸用保護具、手袋、保護衣、保護眼鏡等を着用するこ

と。屋内や密閉された場所の場合、十分に換気を行うこと。なお表面材は、通常は固体なので漏出はないが、加熱したときには液体になり、決して水を掛けて冷却したりさせてはならない。関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項　：排水溝、河川、下水等環境への排出は避ける。河川、湖沼へ流出した場合は直ちに監督官庁に連絡をとること。なお表面材は通常は固体なので漏出はないが、加熱したときには液体になり、溶解炉等から漏出することがある。漏出した時には空冷し凝固させてから後に回収する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
：粉じんが飛散しないように努める。粉じんや端材等が発生した場合は掃除機で吸引するか濡れたモップ等でふき取る。または掃除用具等で掃き集め、ポリ袋等に回収する。回収物や処理物は、「１３.廃棄上の注意」を参考に処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　：必要に応じて、呼吸用保護具、手袋、保護衣、保護眼鏡等を着用すること。取扱いは、換気の良い場所で行う。特に、狭い場所で多量の切断作業を行う場合は、十分な外気の導入を行い、粉じん量を低下させること。

安全取扱注意事項　：容積を減らすための圧縮等の減容処理は、可燃性ガスの発生、火災、爆発のおそれがあるため、行わないこと。局部荷重や衝撃により割れることがある。 屋根の施工等の高所作業時には、関連法規に従い、必ず安全を確保した上で実施する。 強風下での施工は風にあおられやすいので行わない。 粉じんが発生し、床面に散乱するとすべる危険性があるため、こまめに処理する。その際、粉じんが目に入ったり吸い込んだりしないように注意する。保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。

接触回避　：「１０.安定性及び反応性」を参照

衛生対策　：取扱い後は、手洗い、洗顔、うがい等を行う。なお表面材については、通常なら不要だが、粉じん・ﾋｭｰﾑが発生する場合で粉じん・ﾋｭｰﾑの濃度を「8. 暴露防止及び保護措置許容濃度」に記載された基準以下に維持できないときは、局所排気装置等の設備対策を行う。

保管

安全な保管条件　：直射日光の当たる場所や水分と接する場所は避け、換気の良い場所で保管する。養生シート等で覆い、ロープ掛け等の飛散防止処置を行う。酸、ｱﾙｶﾘ、酸化剤、塩化物等から離して保管すること。着火源の近くに保管しない。保管場所の床は、水の浸入または浸透がない構造とする。

安全な容器包装材料　：必要に応じて、水濡れを防止するよう適切に包装材料等を使用する。

８.暴露防止及び保護措置

管理濃度や許容濃度は製品の各成分によって異なるため、成分ごとに記載する。

管理濃度

・ネオマフォーム　：設定されていない。

・表面材　：設定されていない。

・接着剤　：設定されていない。

許容濃度

・ネオマフォーム　：製品に含まれる主要な成分としては、下表の通り。

日本産業衛生学会		ACGIH
（2020年度版）		（2019年度版）
フェノール樹脂	「第2種粉じん」として	「一般粉じん（PNOS*）」として
	・吸入性粉じん 1 mg/m3	吸入性粒子 3 mg/m3
	・総粉じん 4 mg/m3	吸引性粒子 10 mg/m3
イソブタン	ブタン（全異性体）として	ブタン（全異性体）として
	500 ppm、1,200 mg/m3	STEL 1000 ppm
シクロペンタン	未設定	TWA 600 ppm
ポリエチレンテレフタレート(PET)	「第3種粉じん」として	「一般粉じん（PNOS*）」として
	・吸入性粉じん 2 mg/m3	吸入性粒子 3 mg/m3

＊：Particles (insoluble or poorly soluble) Not Otherwise Specified (PNOS)

・表面材　：通常は管理の必要はないが、粉じん・ヒュームが発生する場合には下記の規定が適用される。

日本産業衛生学会（2015 年度）　アルミニウムの第１種粉じんとして、
0.5mg/m3 （吸入性粉じん）、2mg/m3 （総粉じん）

ACGIH（rev. 2008）　アルミニウム金属及び不溶性化合物として

TLV-TWA 1 mg/m3（呼吸性画分）(*1)

OSHA　アルミニウム粉じんとして
PEL 15.0 mg/m3（雰囲気全体)、5.0 mg/m3（呼吸可能）(*2)
アルミニウムヒュームとして
PEL 5.0 mg/m3（*2)

(*1)ACGIH TLV-TWA ：米国産業衛生専門家会議によって設定された時間加重平均の許容濃度 ；1 日 8 時間、週 40 時間の繰り返し労働において作業者に対し有害及ぼさない時間加重平均濃度(*2) OSHA PEL ：米国労働安全衛生局による許容濃度、1 日 8 時間、週 40 時間の繰り返し労働において作業者に対し有害な影響を及ぼさない時間加重平均濃度

・接着剤　：設定されていない

保護具

呼吸器の保護具　：切断等で粉じんが発生する場合、防じんマスクを着用すること。

手の保護具　：保護手袋を着用する。
※巻込まれのおそれがある場合を除く

眼の保護具　：保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具　：長袖作業着および長ズボンを着用する。

９.物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質は製品としてのデータがなく、また含有する成分により異なるため以下に成分ごとの情報を記載する。

・ネオマフォーム

物理的状態　:表面に不織布を有する多孔質板状固体。

色　：紅梅色

臭い　：無臭。

融点・凝固点　：情報なし。

沸点又は初留点及び沸騰範囲
：情報なし。

可燃性　：着火するが、自己消火性を有する。

燃焼又は爆発範囲の上限・下限
：情報なし。

引火点　：製品としては情報なし。樹脂発泡体を粉砕した状態で 259 ℃。

自然発火温度　：製品としては情報なし。樹脂発泡体を粉砕した状態で514 ℃。
分解温度　：情報なし
pH　：粉じんを水に分散させると弱酸性を示す。
動粘性率　：情報なし。
溶解度　：（樹脂発泡体）水に不溶。
ガソリン、ベンゼン等に不溶。濃硫酸、濃硝酸に溶解。
（面材）　水に不溶。
一般溶剤（アルコール、エーテル、ベンゼン、アセトン
ガソリン、パークレン等）に不溶。
n-オクタノール／水分配係数（Log値）
：情報なし。
蒸気圧　：情報なし。
比重（相対密度）　：26～50 kg/m3（面材を除いた樹脂発泡体のかさ密度）
相対蒸気密度　：情報なし。
粒子特性　：情報なし。

・表面材

外観　：　銀色の延性金属(固体)
臭い　：　なし
沸点　：　ｱﾙﾐﾆｳﾑ　2520℃(99.996%Al)
融点　：　ｱﾙﾐﾆｳﾑ　650℃(99.996%Al)
密度　：　ｱﾙﾐﾆｳﾑ　2.71
水に対する溶解性　：　溶けない。
水に対する反応性　：　固体では反応しない。

・接着剤

外観　：　固体
形状　：　ペレット
色　：淡黄色透明
臭い　：わずかな臭気有り
臭いのしきい(閾)値　：データなし
ｐH　：データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲
：データなし
引火点　：208℃以上（クリープランド開放式）
燃焼又は爆発範囲
下限　：　データなし

上限　：　データなし
比重（密度）　：　0.85～1.05（20℃）
溶解度　：　水に不溶、有機溶剤に部分可溶
ｎ－オクタノール/水分配係数
：データなし
自然発火温度　：データなし
動粘着率　：　データなし
その他のデータ　：難化点（環球法）；128℃（代表値）

１０.安定性及び反応性

安定性及び反応性は製品としてのデータがなく、また含有する成分により異なるため以下に成分ごとの情報を記載する。

・ネオマフォーム

反応性　：情報なし
化学的安定性　：紫外線により変色する。（但し、通常の取り扱い条件においては変色による物性変化は軽微）
上記以外の安定性に関わる情報はなし。
危険有害反応可能性　：情報なし。
避けるべき条件　：火気
常時の暴露は避ける条件　：直射日光、高温、水分
混触危険物質　：酸化剤、強酸化剤、強酸、強塩基、アセチレン、ハロゲン、窒素酸化物。
危険有害な分解生成物　：燃焼時の条件によっては
① 有害ガス（一酸化炭素、二酸化炭素、微量のアセトアルデヒド等）が発生す ることがある。
② アンモニア臭が発生する（一般に人体に有害なレベルの量ではない）

・表面材

化学的安定性　：通常雰囲気では、薄い自然酸化皮膜で表面が保護され、それ以上酸化しない。粉じん状態になると爆発することがある。特に放電源がある場合には危険である。
反応性　：特に情報なし
危険有害反応可能性　：コイル状のアルミニウムはくが潅水すると、水との反応熱や水素ガスの発生により、コイルが爆発することがある。また、アルミ粉や微細なチップの状態では以下の様

に反応する。

反応する相手の物質	発生する化学物質
水	徐々に水素と熱を発生する。
熱	温度の上昇率に応じて参加する。
酸とアルカリ	反応して水素を発生する。
強力な酸化剤	激しい参加と共に高熱を発生する。
ハロゲン化合物	特に微細なアルミ粉の場合は激しく反応する。

避けるべき条件　：混触危険物質との接触
混触危険物質　：酸、アルカリ、強力な酸化剤、ハロゲン化合物
危険有害な分解生成物　：水素

・接着剤

反応性　：現在のところ有用な情報なし。
化学的安定性　：通常の取扱いにおいては安定である。
180℃を超える温度では、徐々に分解又は高分子化し、粘度変化・変食・不融化を起こす。
危険有害反応可能性　：現在のところ有用な情報なし。
避けるべき条件　：現在のところ有用な情報なし。
混触危険物質　：現在のところ有用な情報なし。
危険有害な分解生成物　：現在のところ有用な情報なし。

１１.有毒性情報

製品としての有害性データがなく、また含有する成分により異なるため以下に成分ごとの情報を記載する。

・ネオマフォーム

ネオマフォームとしては、健康有害性情報は無い。
なお、各成分の有害性情報と混合物としての GHS 分類結果を記載する。製品に含まれる成分の健康有害性情報（危険有害物質を対象）は下記の通り。

急性毒性　：データなし
皮膚腐食性／皮膚刺激性　：データなし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
：『ウサギを用いた眼刺激性試験（OECD TG 405 相当）の報告が２件ある。一方の試験では、適用後に線上をおこなった試験で、適用１時間後に結膜の赤色化がみられた（6/6 匹）が適用 72 時間後に回復した（SIDS（2010））。もう一方の試験（非洗浄）では、結膜の赤色化がみられ（6/6 匹）、虹彩炎及び結膜浮種（1/6 匹）がみられたが、

適用 4 日後に回復した（SIDS（2010））。』この結果から区分 2B と判断されたシクロペンタンを含むが、製品としては区分に該当しない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

:『有効成分で、ヒトによってかぶれを生じる可能性がある。LLNA(GLP)：陰性、Maximization test(Non GLP)：陽性（モルモット)、Non-RI-Local Lymph Node Assay(GLP)：陰性（マウス)』以上より、区分 1 と判断された樹脂発泡体添加物、および面材添加物を含むが、製品としては区分に該当しない。なお、製品として、以下のデータがある。

『ネオマフォームを被験物質とし、OECD GLP に準拠して OECD テストガイドライン 442B（Skin Sensitization：Local Lymph NodeAssay：BrdU-ELISA）に従った実験を行い、被験物質の感作性の有無を判定した。動物は 9 週齢（感作開始時）の雄の CBA/J マウスを用い、DMSO に懸濁させた被験物質を、調整可能な最大量の 25.0w/v%を最高に、以下 10.0 及び 5.00w/v%の濃度で感作した。陽性対照には DMSO に溶解させたα-hexylcinnamaldehyde（HCA）を、25.0w/v%の濃度で感作した。その結果、ネオマフォームの 5.00、10.0 及び 25.0%の用量では、体重及び一般状態に異常は発現せず、Stimulation Index（SI）はいずれも 1.6 未満であったため、いずれの用量においても感作性は陰性と判断した。一方、陽性対照群の SI は 1.6 以上となり、明らかな感作性を示し、試験の成立条件を満たした。

以上の結果から、本試験条件下でネオマフォームは感作性を示さないものと考える』

生殖細胞変異原性　　：データなし

発がん性　　：データなし

生殖毒性　　：データなし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

:『眼気又はめまいのおそれ』があるとして区分 3 に判断されたイソブタン、『気道刺激性がある（SIDS(2010)）。実験動物では、上気道刺激性及び麻酔作用が見られる。また、中枢神経系抑制作用もみられ、吸入あるいは経皮ばく露により、興奮、均衡喪失、昏迷、昏睡、まれに呼吸不全を

生じる。経口摂取では、胃腸管の刺激、悪心、嘔吐が主な症状である。吸入では、110mg/l で中枢神経系抑制作用、反射喪失、致死性が報告されている（ACGIH(7th,2001)、HSDB(Access on June2014)、PATTY(6th,2012)、SIDS(2010)）。また、マウスの経口投与では、軽度 - 中等度呼吸有害性（respiration hazard）との記載（PARTY(6th,2012)）がある。実験動物への中枢神経抑制作用は、区分 2 を超える範囲でみられた。
以上より、「区分 3（気道刺激性、麻酔作用)」とした』シクロペンタンを含むが、製品としては区分に該当しない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）
：データなし

誤えん有害性　：『炭化水素であり、動粘性率が 0.59mm2/sec、(20℃、CERI 計算値)であるため、「区分１」とした』シクロペンタンを含むが、製品としては区分に該当しない。

・表面材

急性毒性　：入手出来る情報で、区分基準を超えるものはなく、区分できない。
吸入　ラット　LC50：>2.3mg/L, 7.6mg/L
経口　ラット LD50: >2000mg/kg

皮膚腐食性・刺激性　：はくとして皮膚腐食性、刺激性の報告なし

眼に対する重篤な損傷・刺激性
：ヒトの眼の網膜あるいは網膜の近辺に小さな金属粒子があっても、通常刺激性はなく、影響は見られない。大きな粒子や破片は角膜や眼瞼を傷つける。粉じんやヒュームは眼に物理的な刺激性を示すことがある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性：アルミニウムの粉や破片を皮膚に埋め込んだ試験で、過敏反応はみられなかった。

生殖細胞変異原性　：ヒト白血球培養細胞を用いた姉妹染色分体交換試験で陽性であった。ヒト培養星状細胞を用いた不定期 DNA 試験で濃度に依存した増加が認められた。

発がん性　：アルミニウム自体は IARC(国際がん研究機関)で評価されていない。

生殖毒性　：特に有用な情報なし
「アルミニウムと健康」連絡協議会では健康に有害でないとの記述。

慢性毒性・長期毒性　：特に有用な情報なし

吸引性呼吸器有害性　：特に有用な情報なし

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

：入手出来る情報で、区分基準を超えるものはなく、区分できない。機能に変化はなかったが、気管支肺胞洗浄液中の酵素及び細胞学的変化がみられ、0.2 mg/L では肺及び肺門ﾘﾝﾊﾟ節の小肉芽腫の発生(光顕観察による)の報告がある。これらは区分 1 に相当する用量でみられた(ACGIH (7th,2008)、PATTY (6th, 2012))。 以上より、本物質は吸入ばく露で呼吸器への影響があり、区分 1 (呼吸器) とした。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

：入手出来る情報で、区分基準を超えるものはなく、区分できない。虚弱、気腫、非結節性肺繊維症(ｱﾙﾐﾆｳﾑ肺症)を生じた。[4]ﾗｯﾄに 1 日 5 時間、30 日間断続的に吸入暴露したときの TCLo は 206 mg/m3 で間質性線維症、低血糖症、血液成分の変化が見られた。[2]ﾋﾄについては、ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びｱﾙﾐﾆｳﾑ化合物製造関係の 1,142 名の労働者(1975 - 1981 年)の疫学調査において、高濃度のﾀﾞｽﾄ (総ﾀﾞｽﾄとして> 100 mg/m^3- 年) へのばく露で 肺機能への影響がみられ、胸部 X 腺検査で肺の下部に小さく不規則な結節が 7-8%に報告されている (ACGIH (7th, 2008))。したがって、区分 1 (呼吸器) とした。

誤えん有害性　：特に有用な情報なし

合成樹脂についてはﾃﾞｰﾀなし、または情報なし。

・接着剤

急性毒性　:データなし

皮膚腐食性及び皮膚刺激性　:データなし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

:データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性:混合物の成分の呼吸器感作性－区分①の濃度が 1 %以上のための呼吸器感作性－区分 1 とした。

生殖細胞変異原性　:データなし

発がん性　:データなし

生殖毒性　:データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

:データなし

特定標的臓器毒性(反復ばく露)
:データなし
吸引性呼吸器有害性 :データなし

１２.環境影響情報

製品としての環境影響に対するデータがなく、また含有する成分により異なるため以下に成分ごとの情報を記載する。

・ネオマフォーム

生態毒性 水生環境有害性（急性）
:区分３であるシクロペンタンと面材添加物を含むが製品としては区分に該当しない。
水性環境有害性（慢性）
:区分３であるシクロペンタンと面材添加物を含むが製品としては区分に該当しない。
残留性・分解性 :データなし。
生体蓄積性 :データなし。
土壌中の移動性 :データなし。
オゾン層への有害性 :モントリオール議定書の付属書に含まれる成分は含有しない。

・表面材

ｱﾙﾐﾆｳﾑ箔として
生態毒性 : 魚類（ニジマス） LC50（96hr） 120μg/L
魚類（ニジマス） 293 μg/L(7hr)で死亡。
魚類（コイ） LC50（96hr） 260μg/L
魚類（マス） LC50（21 日間）84μg/L
魚類（マス） NOEC（96hr）>100mg/L（OECD TG203、GLP)
: 甲殻類（ミジンコ（Daphnia pulex)） LC50（24hr）2600μg/L
甲殻類（オオミジンコ）LC50（24hr） 2.6mg/L
甲殻類（オオミジンコ） NOEC（48hr）>100mg/L（OECD TG202、GLP)
: 藻類（フサモ）EC50（32days）2500μg/L
藻類（緑藻類） NOEC（72hr）>100mg/L（OECD TG201、GLP)

残留性・分解性　：データなし
生体蓄積性　：データなし
土壌中の移動性　：データなし
オゾン層への有害性　：データなし
合成樹脂についてはﾃﾞｰﾀなし、または情報なし。

・接着剤

生態毒性　：データなし
オゾン層への有害性　：データなし

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物　：法令に則り適切に処理する。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。その場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知する。樹脂発泡体部分は可燃性ガスを含む。容積を減らすための圧縮等の減容処理は、火災、爆発のおそれがあるため、行わないこと。なお、表面材は再利用が可能なので、製品から分離した上で回収し再溶解して使用することが望ましい。その際、アルミニウムの溶解時に発生するドロスは湿った雰囲気中では溶解する時に使用されたフラックス等の種類によって、メタンガスやアンモニアガスを発生するため、管理型産業廃棄物となるので関係法令に則って廃棄すること。

汚染容器及び包装　：包装材料（樹脂フィルム等）を使用している場合には、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

１４.輸送上の注意

国際規制

国連番号　：非危険物
品名　：非危険物
国連分類　：非危険物
容器等級　：非危険物
海洋汚染物質　：非危険物

国内規制

海上規制情報　：非危険物
航空規制情報　：非危険物

陸上規制情報　　：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

：転倒、落下、破損がないように積込、荷崩れ防止を確実に行う。荷役､輸送作業等で梱包体の上には乗らない。非常に軽いので、覆い等をして風圧で飛ばされないようにする。損傷防止のため、鋭角な器物との衝突や角当てを避ける。直射日光を避ける。水濡れ厳禁。

緊急時応急措置指針番号　：非危険物

１５．適用法令

・特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）
：通知対象物質は含有しない

・労働安全衛生法　：

・労働安全衛生法　：

施行令別表第9（表示・通知義務対象物質）イソブタン、シクロペンタン、酸化チタン
アルミニウム

施工例別表第1　危険物（発火性の物）　アルミニウム紛

皮膚等障害化学物質　エチレン酢酸ビニルコポリマー等

・毒物及び劇物取締法（毒劇法）
：通知対象物質は含有しない

・高圧ガス保安法　：通知対象物質は含有しない

・消防法　：通知対象物質は含有しない

・化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）
：通知対象物質は含有しない

・船舶安全法　：通知対象物質は含有しない

・航空法　：通知対象物質は含有しない

・海洋汚染防止法　：通知対象物質は含有しない

・建築基準法　：ホルムアルデヒド放散が「Ｆ☆☆☆☆規格」に適合し、建築基準法施行令で定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料のいずれにも該当しない。

・水質汚濁防止法　：通知対象物質は含有しない

・大気汚染防止法　：通知対象物質は含有しない

１６.その他の情報

・本安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをする場合は、用途・使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。また、当社は、SDS記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。

・本安全データシート（SDS）は、日本国内法令に基づいて作成したものです。貴社が、弊社当該製品をそのまま、あるいは弊社当該製品を配合して、国外に輸出する際には、当該国の法令に対する適否の確認が必要になる場合がありますので、貴社にて確認願います。

・使用上、不適切な事例等は弊社カタログ等に記載しておりますので、併せてご確認下さい。

改訂箇所

No	改訂内容
1	労働安全衛生法改正に伴い、以下の項目の記載内容が変更となった。 １．製品及び会社情報 ８．暴露防止及び保護措置 １５．適用法令